

# ちひろのアルバム

<同時開催>西巻茅子 はじめての絵本 『ボタンのくに』そして『わたしのワンピース』

2025年3月1日(土)～5月11日(日)

ちひろ美術館・東京

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、  
日本児童図書出版協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

暮らしから生まれる絵、

人生を語る写真



1 立てひざのポーズを取る息子・猛(3歳) 1954年10月



2 いわさきちひろ 立てひざの少年 1970年

いわさきちひろが残したアルバムは60冊以上にのぼります。そこには、生後57日目から晩年までのちひろの姿や、自ら撮影した旅先の風景、家族との暮らしなどの写真が収められています。三姉妹の長女として生まれ、妻としても、母としても、懸命に生きたひとりの画家の人生が記録されています。

ちひろ美術館ではすべての写真のデジタルデータ化に取り組み、2024年、研究成果を形にした『いわさきちひろ 写真資料目録』を刊行しました。アルバムの写真とともに絵を見ると、ちひろにとって、日々の暮らしと作品が密接に関わっていたことがわかります。

本展では、ひとり息子をモデルにした絵本『ひとりのできるよ』や、ちひろ自身の姿とも重なる絵本『あかちゃんくるひ』などの作品を写真とともに展示し、ちひろの創作の源をさぐります。

展覧会の見どころ 写真が語るいわさきちひろ

60冊以上のアルバムなどには、1889年（明治22年）から1974年までの5000枚にのぼる写真が収められています。そのなかには、戦火による消失を免れた戦前の写真もあり、幼い三姉妹の姿や第六高等女学校時代のようすを知ることもできます。戦後の写真からは、家族と過ごす日常や旅先でのようす、社会で活躍する姿を見ることが

できます。本展では、その人生や時代背景を語る貴重な写真を多数展示し、大正から昭和にかけて生きた画家いわさきちひろの姿を紹介します。



3 ちひろ1歳の誕生日 1919年12月(推定)

子どもを描き続けて

1951年に息子が生まれると、ちひろは日々成長する息子の姿を写真に撮り、折々に、日付とことばを添えてアルバムをつくりました。息子を写した写真を作品とともに展示し、子どもを描き続けたちひろの創作の源をさぐります。



4 新収蔵作品 いわさきちひろ 「あめふり」 1958年

『いわさきちひろ写真資料目録』

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団では、画家いわさきちひろに関する、大正時代からちひろが亡くなる1974年までの写真資料を5,000余枚所蔵しています。2024年のちひろ没後50年を機に、すべての写真をデータ化し、データベース（一般公開時期は未定）に登録することで研究資源化を進めました。本目録は、その成果をまとめたものです。

発行日 2024年10月31日

発行 公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

体裁 A4/240頁（モノクロ&カラー）/掲載写真約2,000点

ちひろの人生の節目や時代背景に関する解説・詳細年譜あり

※この写真目録を、研究のために必要とする方に有償でお分けします。

詳細は、公式サイトを確認、または当財団写真目録頒布担当までお問い合わせください。



『いわさきちひろ写真資料目録』

出展作品数 約60点



5 いわさきちひろ 楽器を鳴らす子どもたち 『みんなでしようよ』(福音館書店)より 1957年



6 アトリエのちひろ(35歳)と猛(3歳) 1954年



7 いわさきちひろ 湯あがりのあかちゃん 1971年



8 いわさきちひろ あかちゃんのくるひ 『あかちゃんのくるひ』(至光社)より 1969年

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 松方・原島・北村

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

TEL.03-3995-0772 (業務用) FAX 03-3995-0680

TEL.03-3995-0612 (代表)

E-mail : publicity@chihiro.or.jp

# 西巻茅子 はじめての絵本

## 『ボタンのくに』そして『わたしのワンピース』

＜同時開催＞ちひろのアルバム

2025年3月1日(土)～5月11日(日)

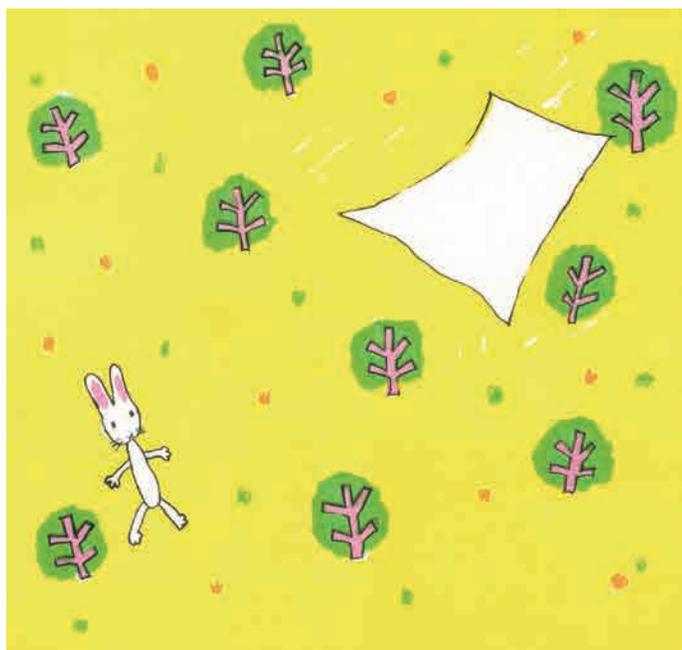
ちひろ美術館・東京 展示室2

主催：ちひろ美術館

協力：西巻茅子オフィス、梅田版画工房、こぐま社



9 西巻茅子 『ボタンのくに』(こぐま社)より 1967年



10 西巻茅子 『わたしのワンピース』(こぐま社)より 1969年

## 子どもたちのために、子どもたちとともに半世紀

西巻茅子(1939-)は、子どもが絵を見る目の確かさに信頼をおいて、心をこめて、絵本をつくり続けてきました。そののびのびとした線と色で描かれた絵本は、多くの子どもの読者たちに支持され、読み継がれています。

本展では、西巻の最初の絵本『ボタンのくに』(1967年・こぐま社)を新規収蔵したことを記念し、全場面を初公開するとともに、ベストセラーとなった3作目の絵本『わたしのワンピース』(1969年・こぐま社)も展示します。これらの絵本が出版された1960年代は、出版社が新たな絵本づくりを模索し、個性的な絵本画家たちが登場した、日本の絵本の草創期でした。そのなかで、西巻は絵本という表現媒体に魅力を感じ、闘うような気持ちで創作をしたといいます。50年以上経ってもなお、愛され続ける、西巻茅子の2冊の絵本の魅力に迫ります。

### 西巻茅子(1939～)

1939年東京に洋画家の娘として生まれる。東京藝術大学工芸科卒業後にリトグラフを学ぶために版画工房へ通い、初めて出品した日本版画協会展で新人賞、奨励賞を受賞。その作品を見たこぐま社の編集者・佐藤英和にさそわれ、リトグラフでつくった絵本『ボタンのくに』(なかむらしげお・文)で1967年にデビュー。代表作に『わたしのワンピース』、『はけたよはけたよ』(神沢利子・文、偕成社、1970年)『ちいさなきいろいかさ』(もりひさし・作 1971年、金の星社、産経児童出版文化賞受賞)、『えのすきなねこさん』(童心社、1986年、講談社出版文化賞絵本賞受賞)など。



展覧会の見どころ 新収蔵作品『ボタンのくに』全場面初公開

大学のころから絵本をつくりたいと思っていた西巻に、出版社がアプローチして生まれた最初の絵本。「何でもいいから好きなテーマで絵を描いて持ってきてなさい」といわれて西巻が選んだのは身近にあったボタンや裁縫の道具。西巻の気概の感じられるリトグラフの線と色の重なりのおもしろさを味わってください。



11 西巻茅子 『ボタンのくに』(こぐま社)より 1967年



12 西巻茅子 『ボタンのくに』(こぐま社)より 1967年

リトグラフの制作の舞台裏

リトグラフは、どのようにつくられるのでしょうか。本展で展示している『ボタンのくに』は、新たに版をおこし、版画工房で摺られました。そのプロセスを動画で紹介します。

絵で語る本『わたしのワンピース』

「絵を見ればわかる絵本が作りたい」という西巻の強い思いでできた3冊目の絵本『わたしのワンピース』は彼女の代表作です。ページをめくるたびに、うさぎの白いワンピースが次々と模様をかえていくようすは、ワクワクします。ラフスケッチとともに展示します。



13 西巻茅子 『わたしのワンピース』(こぐま社)より 1969年



14 西巻茅子 『わたしのワンピース』(こぐま社)より 1969年

出展作品数 約45点

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。 ※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。

## 展覧会関連イベント

## 「ちひろのアルバム」展示関連イベント

## 松本猛ギャラリートーク

日時：3月9日(日) 14：00～／講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問)  
参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

いわさきちひろのひとり息子・松本猛によるギャラリートーク。展示作品を見ながら、母・ちひろとの思い出や展示の見どころなどをお話します。

## いわさきちひろ アトリエ&amp;ガーデントーク

日時：3月16日(日)、4月20日(日) 両日とも14：00～14：30  
参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

「ちひろの復元アトリエ」と「ちひろの庭」にて、ちひろが愛した草花や、愛用の品々、家族との日々の暮らしなどについてお話します。



## スライドトーク

## 写真から見るいわさきちひろ

日時：3月20日(木・祝) 14：00～15：00

講師：中平洋子(当館アーカイブ担当職員)

定員：30名／参加費：無料(入館料別)

申し込み：要事前予約(2/20より公式サイト、TELにて)

## 会期中のイベント

## ちひろの水彩技法体験ワークショップ

## にじみのキーホルダーをつくろう

日時：3月22日(土)・3月23日(日) 両日とも10：30～15：00

参加費：300円(入館料別)／対象：5歳以上／定員：各日50名(先着順)

いわさきちひろが得意とした水彩技法の「にじみ」を体験し、好きな部分を切り抜いてキーホルダーをひとつつくりまします。

## わらべうたあそび

日時：4月5日(土) 11：00～11：40

参加費：無料(入館料別)

申し込み：要事前予約(3/5より公式サイト、TELにて)

## ギャラリートーク

日時：毎月第1・3土曜日 14：00～

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

## 絵本のじかん

日時：第2・4土曜日 11：00～11：30

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

協力：NCBN(ねりま子どもと本ネットワーク)

季節や展示にあわせ、毎回テーマにそった絵本の読み聞かせを行います。あかちゃんから大人まで、どなたでもご参加いただけます。



いわさきちひろ  
おもちゃとハイハイしようとする  
あかちゃん  
1967年

\*最新のイベント情報は公式サイトでご案内しています。

※開館情報、会期、展示名、イベント内容などは予告なく変更する可能性があります。

## 「西巻茅子 はじめての絵本『ボタンのくに』そして『わたしのワンピース』」展示関連イベント

## 西巻茅子 講演会

日時：4月6日(日) 14：00～15：30／講師：西巻茅子(絵本画家)

会場：ちひろ美術館・東京 図書室

定員：30名 参加費：1,000円(入館料別)

【オンライン】定員：80名／参加費：700円

申し込み：要事前予約(3/6より公式サイト、TELにて)

## ぬいぐるみお泊り会

【ぬいぐるみ宿泊日程】

お預かりの会 4月13日(日) 11：00～12：00

お返し 4月19日(土)～4月25日(金)

定員：10体／対象：中学生以下のお子様がお持ちのぬいぐるみ

参加費：500円(フォトブック実費)・入館料別、高校生・18歳以下無料

※お返しの際、保護者1名まで入館料無料

申し込み：要事前予約(3/13より公式サイト、TELにて)

ぬいぐるみが登場する西巻茅子の絵本『ボタンのくに』にちなんで、ちひろ美術館初となる「ぬいぐるみお泊り会」を開催します。お気に入りのぬいぐるみを美術館にお泊りさせてみませんか？お預かりの日には読み聞かせとギャラリートークもあります。お返しの日には、お泊りのようすを記録したフォトブックをお渡しします。

## 展覧会基本情報

展覧会名 ちひろのアルバム

西巻茅子 はじめての絵本

『ボタンのくに』そして『わたしのワンピース』

会期

2025年3月1日(土)～5月11日(日)

※会期は予告なく変更になる場合があります。

○開館時間＝10：00～17：00

(最終入館は16：30まで)

○休館日＝月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)、

※4/28、5/5は開館、5/7は休館

入館料

大人1200円／高校生以下無料／団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は900円／障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料／年間パスポート3000円

交通

○電車の場合＝西武新宿線上井草駅下車徒歩7分

○バスの場合＝JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分／西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

## 次回展示予告

5月16日(金)～7月21日(月)

アンデルセン生誕220年

ちひろと見つめるアンデルセン

〈企画展〉

ヒロシマ・トマトー「歴史を旅する」つかさ おさむ 司 修展